



島教協

《すべては「子どもたちのために」》

情

報

http://www.kyougikai.org

E-mail
office@kyougikai.org

〒693-0011 出雲市大津町2214 Tel/Fax:0853(22)7762 代表者 吉田 修 編集人 曾田 史郎

No.667

全日教連 第三十二回定期大会

六月十四日（日）、東京都内の都市センターホテルにおいて、第三十二回全日教連定期大会が開催されました。



全国から約二百名が集い、島教協からは、吉田会長、曾田事務局長、田中事務局次長の三名が参加しました。来賓には、赤池誠章文部科学大臣政務官、有村治子国務大臣をはじめ、多数の国会議員、関係各位をお迎えしました。

岩野委員長からは、「様々な教育課題が山積する今、教育は改革のうねりの只中にある。そのような中、財務省は十年間で約四万二千人の教職員を削減する方針を出した。これは決して容認することはできない。国づくりは人づくりであり、教育は国の根幹を形成する最重要課題である。この教育改革の最前線にいるのは我々教職員である。我々は何のためにがんばっているのか。それは子ども達のためである。未来の素晴らしい日本の国をつくっていくのはその子ども達である。子ども達が胸を張って誇りをもって、それぞれに豊かな人生を送っていくことができるようにしていくことが大切である。それが、我々教職員の存在の根本である。」と挨拶がありました。

会員からは、定数改善の要望についての全日教連の取組や道徳の教科化についての全日教連の考えや今後のスケジュールなどの質問が出され、慎重審議がなされました。

定期大会では、『国民の負託に応える教育』を確立していくために、四項目の運動方針が採択されました。

【運動方針】

- 一 質の高い教育を提供する研修の充実
- 二 活力ある教育環境の整備
- 三 子供を取り巻く環境の改善
- 四 組織の強化・拡大

島教協 第二回執行委員会

六月二十七日（土）ビッグハート出雲で、第二回島教協執行委員会を開催しました。今回の主な議題は、会員アンケート、県教委交渉の重点項目の検討等に関することでした。

会員アンケートについては、出教協調査部との合同で実施します。皆様からのアンケート結果は、今秋に予定している島根県教育委員会交渉・出雲市教育委員会交渉に対して、貴重な意見として活用していきます。例年通り勤務校での状況調査に加え、教員の多忙化についても、再び調査することになりました。多忙感を現場で実感している教員の意見はとても貴重なものとなります。小・中学校の教員だけでなく、幼稚園教員についても同様の調査を実施します。近年、文部科学省も都道府県も市町村も、教員が子どもと向き合う時間を確保するためいろいろな取り組みが進められています。効果を感ずるまでにはいたっていません。アンケート結果の集計分析から、県教委・市教委交渉の重点項目を検討することにいたしました。

「子ども」の表記についても検討しました。島教協はスローガンを、「すべては『子どもたちのために』」とし、「子ども」と表記してきました。「子供・子ども・こども」というように、いろいろな表記がなされています。文部科学省は、平成二十五年六月に省内の公用文の表記を「子供」に統一されました。交ぜ書きではなく常用漢字である「子供」を使うのが原則ですが、「供」という字が「お供する」等を連想させ、差別的な印象を与えるという理由から「子ども」の表記が多用されてきたようです。全日教連及び単位団体の多くは、「子供」と表記をしています。



島教協は県内の情勢等を検討した結果、これまで通り「子ども」と表記していくことにいたしました。

A cartoon illustration of two young girls. The girl on the left has dark hair in pigtails with a blue headband featuring a yellow star. The girl on the right has dark hair in a bun with a pink headband featuring a yellow star. They are both smiling. A blue banner with yellow stars is behind them, and a large rainbow comet with a yellow star on its tail is on the right.